1827
2012・7/10
大阪教育
発行・大阪教職員組合
〒543-0021　大阪市天王寺区東高津町7-11
大阪府教育会館7F
TEL　06-6768-2330
FAX　06-6768-2239
daikyoso@daikyoso.jp
毎月10日発行／1部30円（組合員は組合費に含む）／編集発行人・田中康寛／印刷・関西共同印刷所

「過労死ライン超え」
「教育に穴があく」

異常な事態を解消せよ

定数内講師削減・教職員の大幅採用増を!!

府労組連夏季闘争は、「働くルール確立」・「消費税増税反対」・「原発再稼働許すな」などの国民的諸課題の大運動と連帯するとともに、「教育・職員基本条例」の撤回、府民生活と公教育を守る府民共同のとりくみとむすび、わたしたちの切実な要求実現にむけ、たたかわれました。

府労組連夏季闘争

当局は 責任ある対策をしめせ

堺の共同の広がりを紹介し、決意表明する堺教組山田委員長

交渉の冒頭、府労組連は、「職員基本条例」にかかわる労使協議の際、期間が短く、労使合意なく強行したことに抗議しました。当局は「あらためてお詫び申し上げたい。勤務労働条件にかかわる問題は府労組連と協議を尽くしたい」とこたえました。また、「職員基本条例が施行されたが、憲法・地方自治法など上位法令遵守の立場に変わりはない」ことを当局と確認しました。

教員採用を大幅に増やせ

学校現場では、正規教職員の採用抑制による定数内講師の多用や「教育に穴があく」事態が深刻化しています。府労組連・大教組は、

○国語の授業で週2時間、自習が続いている学校
○正規教員が病休にはいり、社会科の先生が全員講師になった学校
…など、異常な実態を当局に突きつけました。府教委は、「①教育は正規職員で行うのが原則、②「教育に穴があく」ことはあってはならない、③定数内講師は減らしていく」ことをあらためて確認し、「可能な限り新規採用者を確保する」と回答しました。

大教組は、「これらの解決には、教員採用の大幅増しかない。昨年より10人多いだけの採用数では、今年度200人以上も増やした定数内講師（府下全体で3968人）を減らすことはとうていできないし、教育に穴があく事態の解消もできない」と厳しく府教委を追及しました。しかし府教委は、「講師経験者の採用試験の一部緩和などを行っている」と答えるにとどまり、定数内講師を減らす計画や、今年度300人以上も採用辞退者を出した原因や対策は、まったく示すことができませんでした。

教職員の大幅定員増を要求

また大教組は、長時間過密労働の解消とりわけ「過労死ライン」超えの教職員の働き方の一刻も早い改善を要求しました。府教委は「部活動の見直しを中心に提言を出す」という回答をしましたが、時間外労働の主な要因は「教材準備や公務分掌事務など」であり、部活動の見直しだけではほとんど意味がありません。大教組は、「教職員の大幅増しか解決の道はない」とあらためて府教委に対して要求しました。

長時間勤務解消を一刻も早く

永井伸和さん
（南教組書記長）

ある市の月平均超勤実態は、小学校51時間、中学校67時間。持ち帰りの仕事を入れると小学校91時間、中学校97時間です。はるかに「過労死ライン」を超えています。市町村教委の勤務時間把握は、教職員に出退勤時刻を入力だけさせて集計結果の開示はしない、何ら改善策を示さないのが実態です。長時間労働のあげくに命を奪われたり、メンタル不全に陥り、健康を損なっている事例もあります。府教委は、一刻も早く市町村教委にしっかりと指導・助言をし、大幅教職員増で改善をはかるべきです。

今季闘争の主な到達点

○夏期手当（ボーナス）は条例にもとづき6月29日に支給
　1.9ヶ月（新規採用職員は30%）、再任用0.975月
○緊急な対応を自宅でおこなった場合の時間外勤務手当については、各所属長が判断し運用する（知事部局）
○①教育は正規職員で行うのが原則、②「教育に穴があく」ことはあってはならない、③定数内講師は減らしていくという3点をあらためて確認（可能な限り新規採用者を確保）
○放課後児童クラブ（学童保育）の送迎のための早出遅出勤務について9月実施を目途に導入する（小学校3年生まで対象に検討）
○障がいのある職員に対し、副主査・行政職への転任選考の案内を点字化する
○職員のモチベーションを確保するため、組織・職制・任用等の総合的な人事制度の整備の前提となる将来の組織や職制のあり方を秋ごろ目途に示す

くらし破壊の悪政は許さない

関連2・3面

湧水

大阪の学童保育がつぶされる！えらいこっちゃ！闘いは、あっという間に広がり、2ヶ月で38万強の署名が集まり、「補助金廃止」を撤回、見事！▼1960年代に、この大阪の地で、子らに豊かな放課後を、安心して働き続けたいと親たちが誕生させた学童。今や日本全国に。今日の教育を考える時、この学童ぬきには語れない存在に。今最もエネルギッシュで、人が集まっているのが、この学童保育運動だ。（全国大会は5千人規模）▼子ども達は夢中で遊び、ケンカもやんちゃもしながら子ども時代を生き、指導員は、専門性を高める学びを熱心に深め、親は、手をつないで子育ての困難を拓こうとしている。（大阪市のいきいき活動とは違う固有の役割）その中で、課題の一つが学校との連携問題だ▼子どもの本当の姿が見えにくくなった今、両者が協同で、子どもの真の姿を把握することが求められている。学童に足を運んでみてほしい。学校で見せぬ子どもの健康な野性に出会うかも。指導員の子どもの捉え方から学ぶところは大きい。明日からの実践に新たな示唆が得られるかもしれない。（M）